

特集 “新しい働き方”が燕の未来を変える

【問合せ】シェアオフィスに関することなど
 商工振興課 産業支援係 ☎0256-778231
 移住に関すること
 地域振興課 交流推進係 ☎0256-778364



①家族3人。お気に入りのハンモックの前で。／②庭に出て仕事をしたり、お茶を楽しんだりすることも。／③光久さんのテレワークの様子。／④雅恵さんが経営するパン屋（吉田下中野）は、木・土曜日営業。／⑤材料や工程をシンプルに、素材の味を活かしたパン。

新型コロナウイルスにより、テレワークなど従来の働き方に捉われない、「新しい働き方」が広がり、同時に、地方での暮らしを選択する人も増えています。

市では、そのような人たちに働く場所を提供し、新たな人の流れを作ることと、シェアオフィスの整備を進めるとともに、人材不足への対策として、兼業・副業人材の活用を目指した取り組みを始めています。

そのような人材と市内企業が連携することで、新しい発想による独自の事業や製品が生まれていくことに期待できます。

今号では、市内で整備の進むシェアオフィスの現状や、「新しい働き方」で自分らしくささやう颯爽と暮らしを綴る人々をご紹介します。

テレワークもパン屋のオープンも

今年1月、東京から燕市へ移住した松平さん一家。光久さんは、東京の頃からのインテリア関連の仕事をテレワークで続けています。雅恵さんは移住を機にパン屋を独立開業させました。

光久「ずっと東京で暮らしてきましたが、地方移住について妻とよく話をしていました。妻の実家が三条市なので近いところを探していたら、元パン屋の物件を見つけ、近くに家も借りることができ、本当に巡り合わせがよかったと思っています」そう話すのは光久さん。雅恵

さんは、東京でパン屋に勤めていた頃から独立を考えていたそうです。

光久「仕事柄、出張して現場に行かないとできない仕事もありますが、それ以外は自宅で仕事をしていますね」

雅恵「移住のタイミングで自分の店を持てたことはうれしいです。それから、移住は娘のためでもありました。燕市は山も海も近いので、自然に触れながらのびのびと育ててほしいと思います」

光久「シェアオフィスでいろいろな人や企業とコミュニケーションが取れたらいいですね。今後、交流会のようなものがあるれば、ぜひ参加したいです。そして、せっかくの「ものづくりのまち燕」に来たので、企業などと連携して新しいことに挑戦していけたらいいですね」

燕の暮らしに大満足

移住して約9カ月。東京とは違った良さがあり、燕での暮らしには満足していると話してくれました。

光久「地域の皆さんに本当に良くしてもらっています。この夏は、「近所さんにナスやキュウリをたくさんもらって、夏野菜には困りませんでした。あと、家庭菜園のアドバイスをもらったり。娘も友達ができ楽しく過ごしているようです」

企業との連携を思索中

晴れた日は、庭で過ごすことも多いという松平さん一家。光久さんはパソコン一つあれば場所を問わず仕事ができるため、娘さんと一緒に庭に出て仕事をこなすこともあるそうです。

キーワード Key Word

- テレワーク…情報通信技術を活用した場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。
- シェアオフィス…1つの空間を複数の企業や個人で共有するオフィスのこと。
- 兼業・副業…収入を得るために本業以外の仕事を行うこと。

そもそも...

シェアオフィスってなに？

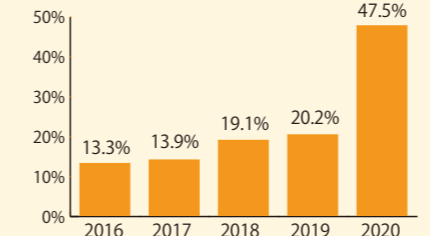
第3の働き場所

コロナ禍によるテレワークの普及や、働き方改革が叫ばれる中、オフィスや自宅とは違う第3の働き場所として、1つの空間を複数の企業や個人で共有するシェアオフィスのニーズが高まっています。

メリットいっぱい シェアオフィス

シェアオフィスでは、設備などを共有することで費用を大幅に削減できるほか、利用者同士が交流できることがメリットです。さらに、創業の観点からも、ノウハウや支援制度についてフォローアップする機能を持った施設もあります。新たなビジネスを始めようとする人にとっても価値のある場所となっています。利用者は多種多様で、企業に所属しながらテレワークをしている人や、フリーランスのデザイナー、企業の支店として利用する人、これから創業を目指す人など幅広く利用されています。

テレワーク導入率の推移



調査対象：常用雇用者規模100人以上の企業
出典：総務省「令和2年 通信利用動向調査」

●プロフィール

今年の春、県央地域の会社から現在の会社へ転職。シェアオフィスの専用個室を活用した営業所で所長を務めている。

▼個室利用のため、仕事に集中できると語ります。



村田金箔グループ 新潟営業所
おおこし いまお
所長 大越 勲 さん
【Work up Studio 燕(小池)を利用】

低コストでオフィスを持つことができました

—— 大越さんの会社について教えてください。——
商品のパッケージやラベルの装飾などに使用する、箔プリントという特殊印刷の素材などを製造・販売する会社です。

—— シェアオフィスを利用したきっかけは？——
燕市内に新潟営業所を開設することが決まり、営業所の立ち上げが私の最初の仕事でした。賃貸オフィスの物件を見て回りましたが、コスト面で課題がありました。困っていたところ、検索してたまたまシェアオフィスがあることを知りました。ネット環境や机・プリンターなどの備品が揃っていて、事務所開設にあたる初期投資が大幅に抑えられることが魅力的でした。

—— 他「良いところ」は？——
他の利用者との交流があることです。ずっと一人で仕事をしていると、気が滅入ります。ゆくゆくは、企業を巻き込んだ新しい動きに繋がってほしいなと思っています。

利用者の声

- 実際、シェアオフィスで働くってどんな感じ？ -

—— 移住した理由は？——
私はもともと自宅で仕事をしていたが、コロナ禍で妻も自宅でのテレワークが増えたことで、移住を意識し始めました。妻は加茂市出身で、近くで移住先を探していたところ、東京へのアクセスがよい燕市に決めました。

—— シェアオフィスはどんな使い方をしていますか？——
週に1回程度、共有スペースを利用して作業しています。根を詰めて作業するというより、気分転換も兼ねて勉強や調べ物をしています。それから、他の利用者との交流も目的です。この間は、若いイラストレーターが居て、作品を見せ合ったりデザインの話をしたりしました。

—— 交流が増えていくとうれしいですね。——
どんどんコミュニケーションをとって、より多くの人や企業と繋がってきたいですね。そういう意味でも、シェアオフィスは価値のある貴重な場所だと思います。

人と繋がることのできる貴重な場所です



●プロフィール

昨年の秋、東京から燕市へ移住。主に自宅でWebデザインなどの仕事をしている。気分転換を兼ねてシェアオフィスを活用。



デザイナー
しかくろ さん
鹿倉 公維 さん
【DOORS(本町)を利用】

▲佐渡汽船内の新潟県港湾資料館のインタラクティブ展示を手掛けました。
その他の制作実績はこちらから見る您可以通过

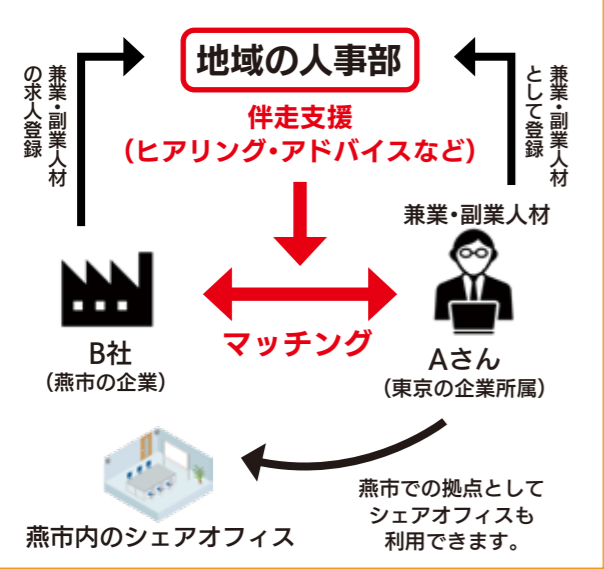


令和3年度に3施設がオープン。令和4年度にも新たに3施設がオープンする予定です！

燕市内のシェアオフィスを紹介



兼業・副業人材活用のイメージ図



人材と企業のニーズをマッチング

人口減少が進む中、多くの企業が人材の確保・育成に課題を抱えています。一方、新しい働き方の一つとして、兼業・副業に注目する人材も多くいます。しかし、企業と人材が個々に繋がるのは難しいこと。そこで、地域一体となり人材と企業

のマッチングとフォローアップを行う「地域の人事部」が必要となります。

複合金属加工基地 燕を未来につなぐ

※ 市は、全国に先駆けたモデル地域として国に選定され、「地域の人事部」に取り組んでいます。燕の産業を未来につなぐため、地域が連携して製品の価値を高めることや、経営力強化を目指します。

兼業・副業などの多様な人材活用を支援する！

「地域の人事部」

Interview

地域企業と利用者の連携の「ハブ」を目指す



県央ランドマーク株式会社 代表取締役 山田 眞一 さん

シエアオフィスの意義や地域に果たす役割について、現在、シエアオフィスを整備中の事業者にお聞きしました。

——シエアオフィス開設の経緯は？

※ コロナ禍による働き方の変化や、DXへの関心の高まり、事業承継の問題が顕在化する中、シエアオフィスを開設することで、これらの課題を解決していくことができると考えました。

具体的には、DXや事業承継に詳しい人をシエアオフィスの利用者として迎え、ここを拠点にセミナーを開催したり、実際に地域に入ってもらうことで、企業の役に立てればと考えています。



▲新しく開設するシェアオフィスのイメージ

——整備中のシェアオフィスの特徴は？

コミュニティマネージャーという形で、運営者側の人材を常駐させる予定です。施設管理はもちろん、地域の企業と利用者をつなげる役割を担います。シエアオフィスでは、インターネットで得ることができないリアルな情報や、交流をいかに提供できるかが重要だと思っています。

——今後の展望を教えてください。

来年、1月中旬ごろのオープンを目指しています。市内企業や利用者の声を聞きながら、目的を達成できるように改良を重ねていきたいと思っています。この施設が、地域の企業とほかの地域の人たちとの連携の拠点（ハブ）の役割を果たし、新しい事業が生まれていくことが楽しみです。

※ DX（デジタルトランスフォーメーション）…社会全体のあり方をデジタル化に合わせて変革すること。

Interview



関東経済産業局 社会・人材政策課 課長 志村 典彦 さん

——燕市をモデル地域に選定した理由は？

インターシップなど、人材確保に向けた取り組みの芽があること。そして、金属加工業を中心に産業が集積していることが理由です。燕の産業は、環境変化に対応して次の一手を打っていく時期にきていると思います。兼業・副業人材などを活用することで、ものづくり企業支援モデルを作りたいと考えています。

——人材活用のイメージは？

経営者と一緒になって経営の質の向上や、企業の魅力を高めていけるような中核人材の活用を想定しています。

——今後の展開を教えてください。

現在、企業や商工会議所、金融機関などと協議会を形成し、課題の整理などを行っているところです。今後、自立化に向けた検討を行い、これをモデルとして他地域への横展開を図っていきたいと考えています。

※モデル地域…国が新たな事業を全国的に行う前に、実証事業を行う選定された特定の地域。地域の人事部は燕市をはじめ6地域でモデル事業が行われている。

※中核人材…事業上のさまざまな業務において中核を担う人材、または特殊な資格や専門性の高い就業経験を有する即戦力たる人材。

「新しい働き方」が地域の課題を解決！

まだまだ増えるシェアオフィス

市内では、すでに稼働している3つのシェアオフィスに加え、今年度中に3施設が新たにオープンし、合計6施設となる予定です。

「新しい働き方」が燕を救う!?

市は、これらのシェアオフィスの整備により、テレワークを活用しての移住を考えている人など、新しい働き方を求める人たちの受け皿となる環境を充実させていきます。また、創業を目指す人たちの拠点としての機能のほか、コスト面などのメリットを他地域の企業から認識してもらうことで、企業誘致に繋がっていきたく考えています。

このほか、テレワークを活用した移住を希望する人向けの補助金や、創業を目指す人に対する豊富な支援メニューを用意しています。さらに、兼業・副業といった新しい働き方を求める人材を活用していくことも、地域の人事部の事業で取り組み始めています。

未来につなぐ

このような支援策により、新しい人の流れが創出され、流入してきた人や企業と市内企業が連携して新しい価値を生み出したり、DX化により労働生産性を向上させるといった地域企業の持つ課題を解決したりしていくことが望まれます。

市では、新しい時代の動きを逃すことなく、このような人材などを取り込み、多くの企業に活用してもらおうことが燕の産業を進化させ、未来につなげていくカギになると考え取り組みを進めていきます。

創業・移住の支援メニューを紹介します

創業

- ・創業支援家賃補助金
指定地域内の利用されていない家や店舗、事務所、倉庫を活用して創業しようとする人へ、賃借料の1/3以内(1月につき上限5万円、12月以内)補助。
- ・創業支援資金利子補給金
創業資金として金融機関から融資を受けた人へ、融資額500万円までを対象に利子額上限2%までを補助。

移住

- ・テレワーカー移住者向け家賃・交通費補助金
新潟県外から燕市に転入し、県内でテレワーク勤務する人が対象。
①賃貸住宅の家賃に対して最大36万円を補助。
②所属する事業所に通勤する際の交通費に対して最大48万円を補助。

【問合せ】 創業 商工振興課 産業支援係 ☎0256・77・8231
移住 地域振興課 交流推進係 ☎0256・77・8364